

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 8 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	うめユニット
記入者(管理者)	
氏名	山田明美
自己評価作成日	令和 4 年 7 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「温 やかな(温度＝ぬくもり)家庭的な雰 囲気の中で楽しく生活が送れるよう 支援する。</p> <p>職員目標 目配り 気配り 心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○運営推進会議を通して、家族様、地域の方との関りを持つ。 ・地域の方との触れ合いの場が持てれば良かったのですが、コロナ感染蔓延の為できなかった。 ・家族様とは、電話や手紙でご利用者様の様子をお知らせし、要望や意見を伝えてもらいました。 ○地域の方と災害時の対応ができるような関係づくり ・地域の防災訓練に参加したかったのですが、できなかった。 ・コロナ感染が落ち着けば、地域の防災担当の方に、協力して頂き、法人の避難訓練にも地域の方に足を運んでもらえ るように連携をしていきたいと思う。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から少し離れた場所にある開設して17年が経過した事業所は、近隣に駐在所や市役所の支所、郵便局、小学校、神社、店舗などが点在しており、生活を送る上で利便性の良い環境となっている。近隣には、同法人の有料老人ホーム等が整備され、重度の介護が必要な多くの認知症高齢者を受け入れている。事業所としても、複数の在宅医による訪問診療の態勢を整えて、今までに多くの看取り介護を支援している。また、法人・事業所として、新人職員の入職時には、ベテラン職員に就いて学ぶ体制を整えて指導しているほか、毎月内部研修を実施して、職員のスキルアップに努めている。コロナ禍において、感染状況を見計らいながら、シールド越しの面会に対応するとともに、電話や来訪時を活用して、利用者の近況を伝えて意見を聞くほか、2か月に1回文書開催する運営推進会議の記録の送付に合わせて、ご意見用の用紙を同封し、書類を返信をしてもらう形で意見を聞く工夫を行い、出された意見をサービスの質の向上に繋げている。さらに、地元から入居している多くの利用者があるものの、コロナ禍の影響もあり、事業所と地域との関係づくりが停滞したままとなっている。加えて、食事や入浴などの対応時間を幅広く取るとともに、限られた職員で対応する工夫をしているものの、日中活動が少ないことが気がかりな状況となっている。そのような中においても、管理者等は、介護ソフトのシステム等を活用して、職員間の情報共有を図るとともに、利用者が豊かな生活が送れることを心がけた支援に努めている。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	フェイスシート作成時に、御本人様や家族様より聞き取りをおこなう。また生活の中で、コミュニケーションを取り情報を集めている。	○	△	△	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族様より情報をもらったり、入居前の生活歴を把握して検討している。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	「本人の思い」について本人をよく知る人(家族、親戚、友人等)に聞き取り行って話し合っている。	△	△	△	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや意向の聞き取りをしている。また、介護保険の更新時期などに、利用者や家族から思いなどの聞き取りをしているものの、フェイスシートに思いなどの情報が十分に記載されていない記録も見受けられるほか、居宅や施設から得られた情報が個別のファイルに残されているものの、シートが混在し、整理されていない状況となっているものも見られた。今後は、利用者一人ひとりのフェイスシートに、詳細な思いなどの情報が記載されるとともに、得られた情報がきちんと整備されることを期待したい。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活の記録、イベントに入学し共有している。	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	御本人様主体のケアをするように心がけている。	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	御本人様とのコミュニケーションを取る際に聞き取りを行っている。また家族様と会う機会があれば、聞き取りを行っている。	△	△	△	入居時に、フェイスシート等を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や入居までに至る経過などの聞き取りを行い、情報を取りまとめている。また、以前利用していたサービス付き高齢者住宅や居宅介護支援事業所などの関係者から、サマリーなどの情報を提供してもらうこともある。さらに、法人・事業所として、介護ソフトの記録システム等を導入して、日々の過ごし方やバイタルサイン、食事摂取状況などが一目で分かるようになっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にしたり、日々の生活の中で観察し、情報を共有している。	△	△	△	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りにより、変化や違いがあった場合の状態の把握に努めている。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	御本人様の視点に立ち、何を求め必要としているのか、アセスメントを行って、検討している。	△	△	△	利用者の個別のアセスメントシートは、介護計画の更新時期に合わせて、情報更新や見直しをしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、シート情報の見直しを行うほか、3か月に1回実施するモニタリングにおいて、利用者の現状確認や状況変化に関するアセスメントを実施している。さらに、介護職員のみならず、全ての職員の情報が、介護ソフトのシステム上で入力でき、共有できるようになっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らしするための課題の把握に努めている。	○	御本人様が、より良い生活が送れるように、課題の把握に努めている。	△	△	△	
4	チームでつくる本人がより良く暮らしするための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	御本人様の思いや意向を踏まえたケアプランにしている。 ケアプランの見直しの際意向の確認を行っている。	△	△	△	
		b	本人がより良く暮らしするための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	課題や日々のケアについて、本人、家族、主治医、職員と話し合い、意見を反映して作成している。	○	△	△	医療的情報を含んだアセスメントやモニタリングの情報をもとに、担当介護職員や計画作成担当者、介護支援専門員等で検討を行い、介護計画を作成している。また、サービス担当者会議前には、家族の意向を確認するとともに、利用者等の意見が反映された計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方が慣れ親しんだ暮らしに、近づけるように、内容を検討している。	△	△	△	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ感染回避の為、今は協力体制が取れていない。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容が、わかるようにファイルして、いつでも見える状態にして共有している。	/	/	/	◎ 担当者会議の席上で、介護支援専門員が介護計画の内容を丁寧に説明しているほか、タブレット等を活用して、職員は計画の目標やサービス内容等をいつでも確認できるようになっている。また、計画に沿った日々のサービスの実施状況は、タブレットを活用して記録に残すことができている。さらに、3か月に1回サービス利用状況報告書等を確認しながら、担当介護職員がモニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、必要に応じて、計画変更の検討した上で、計画の見直しをしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングを行い、3か月に一度介護計画の見直しを行い、改善点など検討し、よりよいケアにつなげている。	/	/	/	○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアカンファレンスの時に計画作成担当者や担当職員が中心となり、3か月に一度見直しを行っている。	/	/	/	○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い、現状把握に努めている。	/	/	/	○
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	御本人様の状況に変化があった場合は、期間にこだわらず話し合いの場を持ち、本人様の意向をふまえた計画の見直しを行っている。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月カンファレンス開催している。必要に応じて随時開催することあり。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月会議を開催して、情報や意見交換を行っている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	毎月の会議、可能な限り参加できるようにし、参加できない者は会議録にて把握している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	全体の申し送りノートと各ユニットの申し送りノートを活用して、情報の共有に努めている。	○	/	/	◎ 申し送りノートや医療的指示に関する連絡ノートなどのほか、介護ソフトのシステムを活用して、職員間で情報の共有化を図っている。また、申し送りノートを出勤時等に確認した場合には、職員はサインを残し、共有状況の漏れがないように確認をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご利用者様のしたいことに対して、かなえることの出来ない内容もある為、お断りするときもある。出来る限りかなえるように努力している。	/	/	/	○
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択することのできる声掛けをするように努めている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースや習慣に合わせて支援している。	/	/	/	○
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ご利用者様が活き活きした生活が出来るように言葉がけや雰囲気づくり II 心がけている。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通の困難な方に対して、表情や言動をヒントにして意向を考えるようにしている。	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	内部研修にてプライバシーの保護、人権、尊厳について学んでいる。常に意識して行動するよう心がけている。	○	◎	○	事業所には、「利用者権利擁護指針」があり、職員は内部研修の機会を通して、人権や尊厳などを学び、意識した利用者へのかかり方などの支援に努めている。また、居室へ入室する際には、ノックしてから入室するとともに、職員はトイレや入浴の支援時にも、利用者のプライバシーに配慮した支援をしている。さらに、個人情報の取り扱いについても、職員は理解して気をつけた対応をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時、入浴時に羞恥心やプライバシー等に注意して介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室時は、ノックして入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報取り扱いの書面にサインをしている。プライバシー保護、個人情報漏えい防止を理解し、守っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションを取りながら、相手の気持ちに寄り添い信頼関係を築いている。お手伝いをして頂いたときには、感謝の気持ちを伝える。				掃除などを手伝ってもらった場面には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えるとともに、励ましの言葉をかけながら、利用者と一緒にいることを意識した支援にも努めている。また、日々の生活の中で、利用者同士が声をかけ合ったり、励まし合いながら、習字に取り組んだりするなど、支え合う場面も見られる。さらに、管理者や計画作成担当者などは、多忙な職員に対しても、利用者へ声かけをするように、職員会議等を活用して話し合うなど、周知徹底に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご利用者様同士が話し合ったり、気にかけていたりして生活している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	ご利用者様を観察して、トラブルにならないように、気配り目配りしている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	ご利用者様の気持ちを傾聴し、原因を探り、トラブル解消に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	コミュニケーションを取りながら、情報を収集しているが、まだ不十分な部分があるため、今後も把握に努めている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ感染が蔓延しているため、外出は制限しているが、コロナが落ち着けば自由に外出できる機会を持ちたい。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ感染蔓延の為、外出補制している。病院受診は職員付き添いのもと、実行している。	×	×	○	コロナ禍以前は、日常的に散歩やドライブなどに出かけることができていた。コロナ禍において、外出制限が設けられており、以前のような外出はできていないものの、ベランダに出て水やりをしたり、屋外で育てた花を共有スペースで鑑賞するなどの工夫をしている。感染状況を見計らいながら、散歩に出かけたり、ドライブに出かけて、車窓から季節の花や風景を眺めたり、病院受診に合わせて、少し遠回りしたドライブを楽しむなど、コロナ禍においても、少しでも多く屋外に出て、利用者が気分転換を図れるような機会が持てることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染蔓延の為、他の方の協力は得られていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の行動、心理症状の理解等、内部研修で勉強しており、一人一人の利用者様に対して適したケアを行っている。				毎日、10時と15時の2回ラジオ体操を行い、事業所では利用者の身体機能の維持に努めている。また、利用者自身にできることはしてもらい、できそうなことには、職員が見守りや待つ介護の支援に努めている。さらに、野菜づくりや水やりなどを積極的に行う利用者もいる。加えて、下膳やトレイを拭いてもらうなど、日常生活において、家事などの生活リハビリをしてもらうなどの支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ご利用者様の出来る部分はして頂き、できない部分の支援を行って、生活している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できる事、できそうな事は声掛けにより、励まし、見守りを行ってなるべくして頂いている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	昔行っていた習字や長年趣味にしていた編み物等することで、楽しみを持てる時間がある。				洗濯物たたみやおやつ作り、野菜の水やり、居室の掃除など、職員は利用者へ役割を担ってもらいながら、生活を送れるよう支援している。また、趣味の習字や編み物などを行う利用者もあり、職員は事前の準備などの支援をしている。さらに、職員はできる限り利用者へ声かけを行い、コミュニケーションを図れるよう努めている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍において面会できる機会が少ないこともあり、生き生きとした姿や表情などを十分に伝えられていないことが窺えるため、家族等への周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の生活の中で、洗濯物たたみ、おやつ作り、野菜の水やり、部屋の掃除等コミュニケーションを取りながら、行っている。	×	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着替えの際洋服を選んでいただけるように声掛けを行っている。				起床時に服を選び、自分で身だしなみを整えている利用者もいる。入浴時や汚れた時には着替えを行い、利用者に衣服を選んでもらっている。中には、生活習慣から起床時等に着替えをせずに生活を送る利用者もおり、入浴時などの着替えで、清潔保持に努めている。また、意見を伝えにくい利用者には、職員が二者択一などに選択肢を絞り、選びやすい工夫をしている。さらに、訪問理容を活用して、利用者の髪型を整えている。加えて、汚れや衣服の乱れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけて、フォローすることを心がけた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪型が乱れ、長くなった場合は、本人様に聞きながら、訪問理容の方にカットしてもらい、さっぱりしてもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が一緒に考えたり、ご家族様に聞き取りを行い、本人様の気持ちを大切にしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	コロナ感染蔓延の為、病院受診以外は、外出できていない。年中行事は、特別食にしたり、共有部分の飾りつけにより、楽しめるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	御本人様のプライドを傷つけないように、さり気なく声掛けをして、直したりしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問理容を利用してカットしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身だしなみに注意して、個性を大切にしている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	終日摂取できる事、自分で食事が食べれること、おいしく食べれる事、見た目食欲が増す事、等理解している。				事業所では、おかず等の外注を行い、業者から配達された食品を温めて、利用者に食事を提供している。業者の栄養士等が、栄養価の計算された献立となっており、食べやすい柔らかさにもなっている。利用者の状態に応じて、現場で細かく刻んだり、ミキサー食に対応したりするほか、味噌汁などの汁物を作っている。また、行事食の際には、業者の発注を止めて、職員は利用者のリクエストメニューを聞き、お寿司やカレーライス、そうめん、うな丼などの手作りの食事を提供している。食器類は、自宅で使用していた馴染みの物などを持ち込んでもらい、自身の食事であることを意識してもらっている。食事の前後に、利用者はコップの下膳やトレイの拭き取りなどを手伝いをしてしている。さらに、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、休憩時間の確保もあり、別々に食事をしている。介助が必要な利用者には、早めの時間に職員が介助を行い、目が行き届くことを心がけている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	トレイのふき取り、おやつ作り、コップの下膳等出来る方にはお願いしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りを一緒に行う事により、作る楽しみ、出来上がって食べる楽しみがあり、達成感を得られている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際事前情報として把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	行事食の際、季節感を感じる旬の食材を使用して、楽しく食事をとってもらっている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ご利用者様の身体機能や健康状態に合わせた調理方法にし盛り付けの彩など工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持参して頂き、使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は一緒に食事をとっていないですが、常に見守りを行い、お皿の入れ替えなどさり気なくサポートしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事時間が近づけば「もうすぐ食事ですから、待ってください」と伝えていく。おかずは冷食を使用しているが、お味噌汁は毎食作っているため、お味噌の臭いで食欲が増している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様一人一人の応じた、量を提供している。水分摂取量は1日1L以上取れるように、取るタイミングや量を把握して支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない方は、好みの飲み物を進めたり、飲むタイミングを検討している。食事の取る量が少ない方は、主治医と相談して、高カロリーの飲み物を摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	外注の冷食を利用している。行事食の場合は、冷食を止めて献立を考えている。献立は栄養士よりアドバイスをもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗い、プラ手袋使用、エプロン着用し調理している。賞味期限、消費期限に注意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後ご利用者様に口腔ケアをすすめて、ご自身でできる方にはして頂き、できない方は介助して行っています。	/	/	/	週1回歯科医の来訪があるほか、歯科衛生士等による指導も受けながら、職員は口腔ケアの重要性を学んでいる。また、毎食後に、職員は声をかけて、できる限り利用者自身に口腔ケアを実施してもらい、できない部分の介助や見守りを行っている。中には、口腔内の状況確認を嫌う利用者もいるものの、家族の了承を得られている場合には、訪問歯科医に協力してもらおうとともに、職員は歯磨き時の口腔内の確認に力を入れながら、定期的に利用者の口腔内の様子を確認できるよう努めている。さらに、職員は、義歯の洗浄などの支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時見守りをしたり、介助をしたりして、関わっているため、口腔内の健康状態把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医に相談している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄後にポリドントにつけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食後口腔ケアの声掛けをして、実行してもらっている。口腔内にトラブルがあるのを発見したら、家族様に伝え、訪問歯科医の利用の了解を得て、診てもらっている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さを理解し、自尊心を傷つけないように配慮している。	/	/	/	事業所では、履くパンツやテープ止めおむつを、ほとんどの利用者が使用している。中には、布パンツで生活を送ることのできている利用者もいる。また、職員は利用者の排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導を行い、立位の取れる利用者には、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、紙パンツやパッドなどの適切な排泄用品が使用できるように職員間で話し合い、家族に了承を得た上で使用している。さらに、事業所では、体操や水分摂取、ヨーグルトなどを活用して、できる限り利用者が自然排便ができるように努めているものの、健康面を考えて、医師と相談の上で3日間排便がない場合には下剤を使用するなど、排泄をコントロールすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分不足にならないようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活の中でパターンを把握するよう関わっている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	立位の取れる方は、トイレ使用をして頂いている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄を困難にしている要因を探り、改善できることはないか検討しながら関わり、職員間で情報を共有するようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、早めに声掛けし、トイレ誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	その方の身体にあった適したサイズの物を使用している。尿量などを考慮しながら、パッド選びをしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々の排泄パターンを考慮し、日中と夜間でパッドやおむつの使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を多めに接種してもらえるよう関わっている。ヨーグルトメーカーでヨーグルトを作り、食べてもらい、腸内環境を整えている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	午前・午後入浴、お湯の温度等、ご利用者様の希望に添えるように調整している。	◎	/	○	事業所では、午前と午後に分けて、週2回利用者が入浴できるよう支援している。また、利用者の気持ちに乗らない場合には、職員が工夫した声かけをしたり、介助する職員を変更したりするなどの支援を行い、入浴してもらうことができている。さらに、利用者の希望に応じて、職員は浴槽に浸かる長さや湯の温度、入浴する時間帯、シャワー浴などの柔軟な対応に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	個浴でくつろいだ気分で、入浴できるように関わっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご利用者様のできる事はして頂けるように見守り行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を探り、その原因を取り除くように検討し、いろいろな手段を講じて、入浴して頂けるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	いつもと変わらない状態であることを確認し、バイタル測定を行い、入浴の可否を決めている。入浴後の状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の生活の中で、睡眠パターン把握している。	/	/	/	職員は睡眠パターンを把握するとともに、日中に多くの活動をしてもらうことで、できる限り夜間に良眠してもらえるような工夫をしている。また、昼寝や日中の休憩などを取り入れて、職員は利用者の体調を考慮しながら、夜間の睡眠支援に努めている。中には、利用者の健康面を考えて、医師に相談して、眠剤を服用している利用者もあり、現在はほとんどの利用者が夜間に良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探る。日中の活動内容、入浴時間、排泄時間などを見直し、夜間ぐっすり眠れるようにする。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で、安眠につながる活動を行い、日中の過ごし方を把握する。主治医に、現状の報告を行い、指示を仰ぐ。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて、横になり休めるように配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様に電話をかけ、会話されている。家族様から電話があった場合は、取次ぎをしてお話してもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持っている方は、自由にかけている。電話をかけたいと要望があれば電話をかけている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は入居者様に渡したり、大事な手紙は家族様に連絡して急ぎでない場合は、請求書と一緒に郵送している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族様に迷惑にならない時間帯に協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自分で持つことにより安心される方に関しては、家族様の了解を得て、持たれている。家族様の了解のもと、お小遣いとして事務所預かりしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染蔓延の為、買い物は職員が家族様が代行している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の所持に関しては、家族様と相談している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の所持方法は御本人様やご家族様と話し合って決めている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所預かりの場合、使用したら帳簿に記入し、月締めし、利用料金の請求書と一緒に帳簿のコピーと領収書を送付している。金銭管理規定については、入居時に説明させていただき署名捺印を頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や御本人様からの要望に対して、可能な限り応じるようにしている。	○	/	○	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられているものの、利用者や家族から要望が出された場合には、職員は可能な範囲で対応をしている。利用者から「パンが欲しい」という意見が出された際には、職員が行ける時に買い物支援をするほか、家族から「化粧水をつけてほしい、夜間のお茶を用意して欲しい、ベッドメイキングをしてほしい」などの要望にも、できる限り柔軟な対応に努めている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナ感染蔓延の為、今は自由に入出入りできない。面会や訪問の際には、行動のアンケートの記入をお願いして確認している。	/	◎	○	近隣に駐在所や市役所支所、郵便局、小学校、店舗などが点在し、分かりやすい場所に立地している事業所は、建物の2階部分にあり、1階のデイサービス等と共用の玄関となっているほか、コロナ禍において、来訪者にはインターホンで対応をしている。また、2階にあるグループホームの入り口には、ソファや植物を置き、くつろぎやすい空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	毎月壁紙を張り替えて、季節感を感じてもらっている。ホールには、テレビやソファがあり、設置位置を考えて、ゆったりくつろげるようにしている。	○	◎	○	広いリビングにはテーブルやソファなどが設置され、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、テーブル間も十分な広さが確保され、車いすの利用者も移動しやすくなっている。さらに、壁には、相田みつを氏の名言の作品のほか、利用者と一緒に作成したひまわりや花火などの貼り絵が飾られ、利用者は季節を感じるができる。加えて、こまめな清掃や換気を行い、衛生的で臭いもなく、清潔な環境が整備されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快な臭いがないようにしている。	△	△	△	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、壁紙で季節感が感じられるように、工夫している。	△	△	△	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ご利用者様が楽しく過ごせる憩いの場となるように努力している。	△	△	△	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	偽自分で慣れ親しんだもの(茶碗、箸、湯飲み)椅子、テーブル、仏壇、テレビ等可能な限り持ち込んで頂いている	◎	△	○	居室には、ベッドやチェスト、エアコンなどが備え付けられている。また、利用者の使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビやラジオのほか、家族写真を飾るなど、職員は居心地良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて、居室内にトイレや尿瓶を置いている。	△	△	○	バリアフリー構造の建物は、トイレや浴室などに分かりやすい表示を行い、利用者が混乱しないよう工夫している。また、利用者の認知能力などに応じて、自分の居室を認識しやすいように、大きく名前を表示するほか、目印となる物を付けている。さらに、廊下を挟んで居室が並んでおり、利用者が混乱しにくい環境が整えられている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ここで必要に応じ、可能な限り、なじみの物を使ってもらっている。	△	△	△	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	不審者の侵入等、防犯上及びコロナ感染症対策として、外部の方の来訪時にアンケートの記入を依頼し、安全確認に対応するため、自由に入出入りできないように施錠をしている。	×	◎	△	2階にある事業所の入り口は、帰宅願望の強い利用者がドアを叩くなどの行為があり、安全面を考えて、現在は施錠をしている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の不穏な現状が見られたものの、管理者は、「どうにかしなければいけない」という思いがあり、開錠の試みを検討している。今後、職員は見守りの強化をしたり、入り口にセンサー等を取り付けて、利用者等の出入りを分かりやすくしたり、コロナ禍を見計らいながら、屋外を利用者と一緒散歩するなど、利用者の気分転換を図りながら、施錠をしなくて済むように職員間で話し合い、工夫を重ねた取組みが行われることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居の際ご家族様にお話しをして、カギを開める事に対する理解は得られていると思う。	△	△	△	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際アセスメントの情報で共有できている。	△	△	△	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	ご利用者様の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見するように注意し、記録に残し、情報を共有している。	△	△	△	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつも違う状態が見られた場合は、看護師、主治医に報告し指示を仰ぐことになっている。	△	△	△	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	御本人様、家族様の意向を重視して、医療機関を受診している。	◎	△	△	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際、御本人様、家族様に納得して頂き、主治医を決めている。	△	△	△	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	主治医より、通院の必要性ありと判断された場合、家族様に連絡して、同意を頂き、職員が付き添いのもと、病院受診している。結果は家族様、主治医に報告している。救急搬送の場合は、救急搬送先の病院がわかり次第家族様に連絡し、病院に来て頂き先生からの説明を聞いてもらっている。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院となった場合は、その方の日々の生活状態が解るサマリーにて情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院より家族様に連絡があるので、家族様より情報を頂いている。家族様の了解のもと、病院へ問い合わせをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の関わりの中で得た情報や気づきを看護師に報告している。主治医の往診時に報告又はファックスにて指示を仰いでいる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師にいつでも気軽に相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃の健康管理(バイタル、食事、睡眠)や状態の変化があれば主治医に報告して指示を受けている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	既往歴により、薬の必要性は理解している。副作用についても薬情を読んで、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセット時、服薬時にはダブルチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状態を観察し、主治医に報告相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が重度化した場合や終末期のあり方について、家族様の意向を確認して、方針を決めている。一度決めたことに対して、変更は可能。				事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時に家族等に説明して、意向を確認している。また、複数の在宅医による訪問診療の態勢を整えられ、今までに事業所として、多くの看取り介護を経験している。さらに、終末期や状態の変化に応じて、医師の意見をもとに家族を交えて話し合い、看取りの方向性を決めて対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化し、終末期のあり方について、家族様の意向をくみ取り職員、主治医と情報を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応について、経験回数に関わらず、家族様や本人様意向に沿ったケアを心がけ、実施するようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居の際説明行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族様の意向を職員、主治医、看護師が共有している。検討内容や方針は全職員が把握している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族様の不安や悩みの聞き取りをしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロウイルス、インフルエンザ等研修を行い、理解している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに沿って行う。研修を行い周知徹底している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	市、県のホームページより情報を入れ、事業者内でも注意喚起している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	常にマスク着用し、手洗い、うがい、アルコール消毒実施している。来訪者についても玄関でアルコール消毒をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者様の状況や様子をご家族様に報告している。				コロナ禍において、面会の制限が設けられており、家族が参加した行事の開催は自粛をしている。また、感染状況を見計らいながら、シールド越しの面会に対応していた時期があるものの、感染状況で面会の機会が左右される現状があり、管理者は、SNSの機能を活用したり、リモート面会を検討している。さらに、家族との関係を保つために、職員は手紙や写真、関係書類などをこまめに送付するとともに、返信用封筒等を同封して、2か月に1回家族からの意見を送付してもらい、利用者へのかかわりやサービスの向上に活かしている。加えて、電話連絡のほか、家族の来訪時を活用して、職員は利用者の様子を伝えて、その場で意見を聞くよう努めている。今後管理者は、「事業所便りを発行や写真の送付を積極的に行っていきたい」と考えている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	家族様との触れ合いは、コロナ蔓延の為中止している。	×		○		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	運営推進会議が今は文書開催になっており、2ヶ月に1度、家族様よりご意見や要望を書いて郵送してもらっている。意見や要望には、真摯に対応している。	○		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や、身体状況の悪化等、ご家族様に説明して、理解して頂けるようにしている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事柄や出来事について、文書にて報告している。職員の移動、退職などは、報告していない。	○				○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ご家族様に説明し、理解して頂いている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様が来られた時に、何かご意見がないか、言ってもらえるように、コミュニケーションを取り、信頼関係を作っていく。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居の際に説明し、理解得られている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約に基づいて退去して頂いている。納得の行く退去先については、ご家族様、主治医の意向を組んで決められている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文書の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前に、地域近隣の方々への説明はあったと聞いているが、理解を得られているのかどうかは、わからない。		◎		法人として、町内会に加入をしているものの、コロナ禍において、利用者が地域住民と交流できる機会は激減しており、職員が近隣住民と挨拶や会話を交わす程度に留まっている。コロナ禍以前は、職員が地域の清掃や防災訓練などに参加協力をするほか、幼稚園児交流を図ることもできていた。また、隣接する同法人の関連施設と連携して、夏祭りやクリスマス会を実施して、地域の子どもたちに参加してもらうこともできていた。法人・事業所として、十分な町内会との関係性が築かれていないため、コロナ禍の収束後には、集合形式の運営推進会議を活用して、地域住民等との交流を話し合ったり、利用者と一緒に運動会や文化祭などの地域行事に参加したりするなど、地域の民生委員や町内会長、地区社協、高齢クラブなどの地域福祉に関係が深い方々とのつながりが持てるように、市行政や地域包括支援センター等と協力をしながら、その幅が少しずつ広がれることを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶は出来ている。今はコロナ感染蔓延の為、町内会、自治会への参加はできていない。		×	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	コロナ感染蔓延の為、地域の方との交流無し。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ感染蔓延の為、地域の方の立ち寄りなし。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をして、何気ない会話をしている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ感染蔓延の為、近隣の方々や、ボランティアの方との交流は出来ていないが、コロナ感染が、落ち着いたら、交流を深めていきたい。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ感染蔓延の為、行動制限しているため、関係を深める取り組みはできていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	文書開催の為、ご家族様、地域の方の意見を頂いているが、同じ型の意見に偏る傾向がある。	○	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は文書開催が継続され、文書を送付して、家族等から可能な範囲で意見を聞き、返答するなどの対応をしている。また、利用者や家族、市担当者や地域包括支援センター等の参加はあるものの、地域住民の参加が少ない状況となっている。今後は、地域福祉に関係する方々に、幅広く運営推進会議への参加を求めるとともに、有意義な会議開催となることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	近況報告や、活動報告を行っている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	文書開催になっている。ご家族様や、地域の方に活動内容を伝える事はできていると思う。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念はわかりやすく揭示しており、職員全員が、理解し共通認識を持っている。理念に基づいて、日々の介護実践にあたっている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでもわかりやすく伝えている。	×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人の意研修は、基本的なことから、専門的なことまで、月1回行っている。	/	/	/	職員の入れ替わりが頻繁にあった時期もあり、法人・事業所として、新人職員の入職時には、ベテラン職員に就いて学ぶ体制を整えて指導するとともに、毎月内部研修を実施して、職員のスキルアップに努めている。また、職員は毎月実施するカンファレンスや日々の申し送りなどを活用して意見交換する機会があるとともに、年2回管理者との個別面談を実施するほか、必要に応じて面談を行い、意見を伝えることができる。さらに、必要に応じて、管理者は職員から出された意見などを施設長へ報告して、対応をしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	内部研修や職員との定期的な面談を行い、介護に対するスキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	評価制度を取り入れており、年2回の査定や年1回の昇給を行っている。また、環境や条件整備についてはその都度相談対応を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍となり外部との交流や研修の機会が減っていると感じている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	その都度、職員との面談を行っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	研修により理解している。	/	/	○	法人内の内部研修のテーマに取り上げて、虐待や不適切な対応などを定期的に学んでおり、職員は意識した対応に努めている。また、日々の業務の中で、不適切な言動などが見られた場合には、管理者から気づいたことを、直接該当職員へ伝えるなどの注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りのときや、カンファレンスのときに話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には、注意を払い、話を聞き必要あれば、上司に報告している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修により身体拘束について理解している。日々の生活の中や、ケアプランの見直しの際に話し合いを行い、不適切なケアが行われないように見逃さないようにする。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	ご家族様より、身体拘束の要望があっても、その他の方法や対策をご家族様に提案し、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	成年後見制度については学んでいる。日常自立支援事業についての理解は乏しい。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後必要に応じて連携していける体制を作りたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアル作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修の実践の中で身につけている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書やヒヤリハットに基づき、委員会を開催し、対応策を検討し、再発しないように全体で周知している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり。職員は理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合は、速やかに対応を行う。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた場合は、速やかに原因を調査し、経過と結果を伝え、納得して頂けるまで話し合いを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議を2ヶ月に1度、今は文書開催にて、ご意見や要望、苦情等を書いて郵送して頂いている。	○	/	○	日々のかかわりの中で、職員は利用者から意見を聞き取り、可能な範囲で対応をしている。家族から、面会時や電話連絡時を活用して、職員は意見を聞くほか、2か月に1回文書開催する運営推進会議の記録の送付に合わせて、ご意見用の用紙を同封し、書類を返信してもらう形で意見を聞く工夫を行い、出された意見をサービスの質の向上に繋げている。また、日々の業務の中で、管理者は職員から意見を聞く姿勢を心がけているほか、年2回個別面談を実施して意見交換をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族様より、電話で相談を受けている。公的な窓口のあること伝えている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎月の会議に出席し、意見を交換し、問題解決に取り組んでもらっている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員より、意見・要望をいつでも聞けるように関わり、利用者本位の支援をするために検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	職員は、個別の年間の目標を定めて、利用者へのかかわりに関する自分の評価を実施するほか、目標の達成に向けて取り組んでいる。また、職員の入れ替わりがあり、今回の自己評価は管理者のみで作成しており、今後は職員の見解を取りまとめながら、自己評価が作成されることを期待したい。さらに、サービスの評価結果は職員へ説明を行い、目標達成計画に取り組むとともに、運営推進会議の中でも報告して、家族等から意見をもらっている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらいながらサービスの向上に繋げることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を明らかにすることで、解決策や対応などを見出し、取り組んで行けるように、機会があれば振り返る。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告している。今後の取り組みのモニターについて、行っていただけるように、働きかけていく。	△	×	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが、成果の確認は今後行っていきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが、原子力火災については、今後検討する。				<p>同法人の隣接する有料老人ホーム等が、松山市行政の福祉避難所となっていることもあり、法人・事業所としても、火災や地震、津波などに関する各種マニュアルを整備している。また、事業所では、年2回消火や避難の訓練を実施している。コロナ禍以前は、地域の防災訓練にも、職員等が参加協力することもできていた。利用者家族等アンケート結果から、家族に十分な災害への備えが理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議等の報告の送付に合わせて、避難訓練の様子の報告をしたり、コロナ禍の収束後には、訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、避難訓練に家族の参加を呼びかけるなど、安心安全な取組みについて、周知方法を職員間で検討することを期待したい。</p>
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中・夜間を想定して訓練を実施している。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ感染蔓延の為、訓練は事業所内で行っている。コロナ感染が落ち着けば、地域の方にも、協力、支援して頂けるように働きかけていきたい。	x	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	以前は地域の訓練に参加していた。コロナ蔓延の為、地域の訓練には参加していない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ご家族様からの相談の中で、実践した体験談をお話して、参考にして頂いている。				<p>入所の相談も含めて、地域住民から相談が寄せられた場合には対応することはできるものの、ほとんど相談が寄せられることはない状況となっている。今後は、法人や関連施設と協力をしながら、地域住民からの相談にも対応できることを周知するとともに、相談が受けられるように、地域包括支援センターや他の事業所等と繋がりや連携を図れることを期待したい。また、事業所は、松山市認知症高齢者SOSネットワーク事業・協力事業所にもなっており、一時的に行方不明となった高齢者の捜索等にも協力している。さらに、コロナ禍において、研修参加や会議に参加する機会は減少しているものの、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることはできている。</p>
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は、相談に乗りたいと思う。		x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	コロナ感染蔓延の為、活用されていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	x	コロナ感染蔓延の為、受け入れてきていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	x	コロナ感染蔓延の為、地域イベント、ボランティア活動に参加していない。コロナが落ち着けば、参加したいと思う。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 8 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名 (ユニット名)	グループホームいまづ さくらユニット
記入者(管理者) 氏名	山田明美
自己評価作成日	令和 4 年 7 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「温 やかな(温度=ぬくもり)家庭的な雰 囲気の中で楽しく生活が送れるよう 支援する。」</p> <p>職員目標 目配り 気配り 心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○運営推進会議を通して、家族様、地域の方との関りを持つ。 ・地域の方との触れ合いの場が持てれば良かったのですが、コロナ感染蔓延の為できなかった。 ・家族様とは、電話や手紙でご利用者様の様子をお知らせし、要望や意見を伝えてもらいました。 ○地域の方と災害時の対応ができるような関係づくり ・地域の防災訓練に参加したかったのですが、できなかった。 ・コロナ感染が落ち着けば、地域の防災担当の方に、協力して頂き、法人の避難訓練にも地域の方に足を運んでもらえるように連携をしていきたいと思う。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から少し離れた場所にある開設して17年が経過した事業所は、近隣に駐在所や市役所の支所、郵便局、小学校、神社、店舗などが点在しており、生活を送る上で利便性の良い環境となっている。近隣には、同法人の有料老人ホーム等が整備され、重度の介護が必要な多くの認知症高齢者を受け入れている。事業所としても、複数の在宅医による訪問診療の態勢を整えて、今までに多くの看取り介護を支援している。また、法人・事業所として、新人職員の入職時には、ベテラン職員に就いて学ぶ体制を整えて指導しているほか、毎月内部研修を実施して、職員のスキルアップに努めている。コロナ禍において、感染状況を見計らいながら、シールド越しの面会に対応するとともに、電話や来訪時を活用して、利用者の近況を伝えて意見を聞くほか、2か月に1回文書開催する運営推進会議の記録の送付に合わせて、ご意見用の用紙を同封し、書類を返信をしてもらう形で意見を聞く工夫を行い、出された意見をサービスの質の向上に繋げている。さらに、地元から入居している多くの利用者があるものの、コロナ禍の影響もあり、事業所と地域との関係づくりが停滞したままとなっている。加えて、食事や入浴などの対応時間を幅広く取るとともに、限られた職員で対応する工夫をしているものの、日中活動が少ないことが気がかりな状況となっている。そのような中においても、管理者等は、介護ソフトのシステム等を活用して、職員間の情報共有を図るとともに、利用者が豊かな生活が送れることを心がけた支援に努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	フェイスシート作成時に、御本人様や家族様より聞き取りをおこなう。また生活の中で、コミュニケーションを取り情報を集めている。	○	△	△	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや意向の聞き取りをしている。また、介護保険の更新時期などに、利用者や家族から思いなどの聞き取りをしているものの、フェイスシートに思いなどの情報が十分に記載されていない記録も見受けられるほか、居宅や施設から得られた情報が個別のファイルに残されているものの、シートが混在し、整理されていない状況となっているものも見られた。今後は、利用者一人ひとりのフェイスシートに、詳細な思いなどの情報が記載されるとともに、得られた情報がきちんと整備されることを期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族様より情報をもらったり、入居前の生活歴を把握して検討している。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	「本人の思い」について本人をよく知る人(家族、親戚、友人等)に聞き取り行って話し合っている。	△	△	△	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活の記録、イベントに入手し共有している。	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	御本人様主体のケアをするように心がけている。	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	御本人様とのコミュニケーションを取る際に聞き取りを行っている。また家族様と会う機会があれば、聞き取りを行っている。	△	△	△	入居時に、フェイスシート等を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や入居までに至る経過などの聞き取りを行い、情報を取りまとめている。また、以前利用していたサービス付き高齢者住宅や居宅介護支援事業所などの関係者から、サマリーなどの情報を提供してもらうこともある。さらに、法人・事業所として、介護ソフトの記録システム等を導入して、日々の過ごし方やバイタルサイン、食事摂取状況などが一目で分かるようになっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にしたり、日々の生活の中で観察し、情報を共有している。	△	△	△	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りにより、変化や違いがあった場合の状態の把握に努めている。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	御本人様の視点に立ち、何を求め必要としているのか、アセスメントを行って、検討している。	△	△	△	○ 利用者の個別のアセスメントシートは、介護計画の更新時期に合わせて、情報更新や見直しをしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、シート情報の見直しを行うほか、3か月に1回実施するモニタリングにおいて、利用者の現状確認や状況変化に関するアセスメントを実施している。さらに、介護職員のみならず、全ての職員の情報が、介護ソフトのシステム上で入力でき、共有できるようになっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	御本人様が、より良い生活が送れるように、課題の把握に努めている。	△	△	△	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	御本人様の思いや意向を踏まえたケアプランにしている。ケアプランの見直しの際意向の確認を行っている。	△	△	△	○ 医療的情報を含んだアセスメントやモニタリングの情報をもとに、担当介護職員や計画作成担当者、介護支援専門員等で検討を行い、介護計画を作成している。また、サービス担当者会議前には、家族の意向を確認するとともに、利用者等の意見が反映された計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	課題や日々のケアについて、本人、家族、主治医、職員と話し合い、意見を反映して作成している。	△	△	△	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人が慣れ親しんだ暮らしに、近づけるように、内容を検討している。	△	△	△	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ感染回避の為、今は協力体制が取れていない。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容が、わかるようにファイルして、いつでも見える状態にして共有している。	/	/	/	◎ 担当者会議の席上で、介護支援専門員が介護計画の内容を丁寧に説明しているほか、タブレット等を活用して、職員は計画の目標やサービス内容等をいつでも確認できるようになっている。また、計画に沿った日々のサービスの実施状況は、タブレットを活用して記録に残すことができている。さらに、3か月に1回サービス利用状況報告書等を確認しながら、担当介護職員がモニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、必要に応じて、計画変更の検討した上で、計画の見直しをしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングを行い、3か月に一度介護計画の見直しを行い、改善点など検討し、よりよいケアにつなげている。	/	/	/	○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアカンファレンスの時に計画作成担当者や担当職員が中心となり、3か月に一度見直しを行っている。	/	/	/	○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い、現状把握に努めている。	/	/	/	○
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	御本人様の状況に変化があった場合は、期間にこだわらず話し合いの場を持ち、本人様の意向をふまえた計画の見直しを行っている。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月カンファレンス開催している。必要に応じて随時開催することあり。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月会議を開催して、情報や意見交換を行っている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	毎月の会議、可能な限り参加できるようにし、参加できない者は会議録にて把握している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	全体の申し送りノートと各ユニットの申し送りノートを活用して、情報の共有に努めている。	○	/	/	◎ 申し送りノートや医療的指示に関する連絡ノートなどのほか、介護ソフトのシステムを活用して、職員間で情報の共有化を図っている。また、申し送りノートを出勤時等に確認した場合には、職員はサインを残し、共有状況の漏れがないように確認をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご利用者様のしたいことに対して、かなえることの出来ない内容もある為、お断りするときもある。出来る限りかなえるように努力している。	/	/	/	/
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択することのできる声掛けをするように努めている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースや習慣に合わせて支援している。	/	/	/	○
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ご利用者様が生き生きとした生活が出来るように言葉がけや雰囲気づくり II 心がけている。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	意思疎通の困難な方に対して、表情や言動をヒントにして意向を考えるようにしている。	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	内部研修にてプライバシーの保護、人権、尊厳について学んでいる。常に意識して行動するよう心がけている。	○	◎	○	事業所には、「利用者権利擁護指針」があり、職員は内部研修の機会を通して、人権や尊厳などを学び、意識した利用者へのかかり方などの支援に努めている。また、居室へ入室する際には、ノックをしてから入室するとともに、職員はトイレや入浴の支援時にも、利用者のプライバシーに配慮した支援をしている。さらに、個人情報の取り扱いについても、職員は理解して着つけた対応をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時、入浴時に羞恥心やプライバシー等に注意して介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室時は、ノックして入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報取り扱いの書面にサインをしている。プライバシー保護、個人情報漏えい防止を理解し、守っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションを取りながら、相手の気持ちに寄り添い信頼関係を築いている。お手伝いをして頂いたときには、感謝の気持ちを伝えていく。				掃除などを手伝ってもらった場面には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えるとともに、励ましの言葉をかけながら、利用者と一緒にいることを意識した支援にも努めている。また、日々の生活の中で、利用者同士が声をかけ合ったり、励まし合いながら、習字に取り組んだりするなど、支え合う場面も見られる。さらに、管理者や計画作成担当者などは、多忙な職員に対しても、利用者へ声かけをするように、職員会議等を活用して話し合うなど、周知徹底に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご利用者様同士が話し合ったり、気にかけていたりして生活している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	ご利用者様を観察して、トラブルにならないように、気配り目配りしている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	ご利用者様の気持ちを傾聴し、原因を探り、トラブル解消に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	コミュニケーションを取りながら、情報を収集しているが、まだ不十分な部分があるため、今後も把握に努めている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ感染が蔓延しているため、外出は制限しているが、コロナが落ち着けば自由に外出できる機会を持ちたい。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ感染蔓延の為、外出補制している。病院受診は職員付き添いのもと、実行している。	×	×	○	コロナ禍以前は、日常的に散歩やドライブなどに出かけることができていた。コロナ禍において、外出制限が設けられており、以前のような外出はできていないものの、ベランダに出て水やりをしたり、屋外で育てた花を共有スペースで鑑賞するなどの工夫をしている。感染状況を見計らいながら、散歩に出かけたり、ドライブに出かけて、車窓から季節の花や風景を眺めたり、病院受診に合わせて、少し遠回りしたドライブを楽しむなど、コロナ禍においても、少しでも多く屋外に出て、利用者が気分転換を図れるような機会が持てることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染蔓延の為、他の方の協力は得られていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の行動、心理症状の理解等、内部研修で勉強しており、一人一人の利用者様に対して適したケアを行っている。				毎日、10時と15時の2回ラジオ体操を行い、事業所では利用者の身体機能の維持に努めている。また、利用者自身にできることはしてもらい、できそうなことには、職員が見守りや待つ介護の支援に努めている。さらに、野菜づくりや水やりなどを積極的に行う利用者もいる。加えて、下膳やトレイを拭いてもらうなど、日常生活において、家事などの生活リハビリをしてもらうなどの支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ご利用者様の出来る部分はして頂き、できない部分の支援を行って、生活している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できる事、できそうな事は声掛けにより、励まし、見守りを行ってなるべくして頂いている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	昔行っていた習字や長年趣味にしていた編み物等することで、楽しみを持てる時間がある。				洗濯物たたみやおやつ作り、野菜の水やり、居室の掃除など、職員は利用者へ役割を担ってもらいながら、生活を送れるよう支援している。また、趣味の習字や編み物などを行う利用者もあり、職員は事前の準備などの支援をしている。さらに、職員はできる限り利用者へ声かけを行い、コミュニケーションを図れるよう努めている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍において面会できる機会が少ないこともあり、生き生きとした姿や表情などを十分に伝えられていないことが窺えるため、家族等への周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の生活の中で、洗濯物たたみ、おやつ作り、野菜の水やり、部屋の掃除等コミュニケーションを取りながら、行っている。	×	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着替えの際洋服を選んでいただけるように声掛けを行っている。				起床時に服を選び、自分で身だしなみを整えている利用者もいる。入浴時や汚れた時には着替えを行い、利用者に衣服を選んでもらっている。中には、生活習慣から起床時等に着替えをせずに生活を送る利用者もおり、入浴時などの着替えで、清潔保持に努めている。また、意見を伝えにくい利用者には、職員が二者択一などに選択肢を絞り、選びやすい工夫をしている。さらに、訪問理容を活用して、利用者の髪型を整えている。加えて、汚れや衣服の乱れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけて、フォローすることを心がけた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪型が乱れ、長くなった場合は、本人様に聞きながら、訪問理容の方にカットしてもらい、さっぱりしてもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が一緒に考えたり、ご家族様に聞き取りを行い、本人様の気持ちを大切にしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	コロナ感染蔓延の為、病院受診以外は、外出できていない。年中行事は、特別食にしたり、共有部分の飾りつけにより、楽しめるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、さびしく感じている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	御本人様のプライドを傷つけないように、さりげなく声掛けをして、直したりしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問理容を利用してカットしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身だしなみに注意して、個性を大切にしている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	終日摂取できる事、自分で食事が食べれること、おいしく食べれる事、見た目食欲が増す事、等理解している。				事業所では、おかず等の外注を行い、業者から配達された食品を温めて、利用者に食事を提供している。業者の栄養士等が、栄養価の計算された献立となっており、食べやすい柔らかさにもなっている。利用者の状態に応じて、現場で細かく刻んだり、ミキサー食に対応したりするほか、味噌汁などの汁物を作っている。また、行事食の際には、業者の発注を止めて、職員は利用者のリクエストメニューを聞き、お寿司やカレーライス、そうめん、うな丼などの手作りの食事を提供している。食器類は、自宅で使用していた馴染みの物などを持ち込んでもらい、自身の食事であることを意識してもらっている。食事の前後に、利用者はコップの下膳やトレイの拭き取りなどを手伝いをしてもらう。さらに、食事の際には、職員は見守りやサポートを行い、休憩時間の確保もあり、別々に食事をしている。介助が必要な利用者には、早めの時間に職員が介助を行い、目が行き届くことを心がけている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	トレイのふき取り、おやつ作り、コップの下膳等出来る方にはお願いしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りを一緒に行う事により、作る楽しみ、出来上がって食べる楽しみがあり、達成感を得られている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際事前情報として把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	行事食の際、季節感を感じる旬の食材を使用して、楽しく食事をとってもらっている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ご利用者様の身体機能や健康状態に合わせた調理方法にし盛り付けの彩など工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持参して頂き、使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は一緒に食事をとっていないですが、常に見守りを行い、お皿の入れ替えなどさりげなくサポートしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事時間が近づけば「もうすぐ食事ですから、待ってください」と伝えていく。おかずは冷食を使用しているが、お味噌汁は毎食作っているため、お味噌の臭いで食欲が増している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様一人一人の応じた、量を提供している。水分摂取量は1日1L以上取れるように、取るタイミングや量を把握して支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない方は、好みの飲み物を進めたり、飲むタイミングを検討している。食事の取る量が少ない方は、主治医と相談して、高カロリーの飲み物を摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	外注の冷食を利用している。行事食の場合は、冷食を止めて献立を考えている。献立は栄養士よりアドバイスをもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗い、プラ手袋使用、エプロン着用し調理している。賞味期限、消費期限に注意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後ご利用者様に口腔ケアをすすめて、ご自身でできる方にはして頂き、できない方は介助して行っています。	/	/	/	週1回歯科医の来訪があるほか、歯科衛生士等による指導も受けながら、職員は口腔ケアの重要性を学んでいる。また、毎食後に、職員は声をかけて、できる限り利用者自身に口腔ケアを実施してもらい、できない部分の介助や見守りを行っている。中には、口腔内の状況確認を嫌う利用者もいるものの、家族の了承を得られている場合には、訪問歯科医に協力してもらおうとともに、職員は歯磨き時の口腔内の確認に力を入れながら、定期的に利用者の口腔内の様子を確認できるよう努めている。さらに、職員は、義歯の洗浄などの支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時見守りをしたり、介助をしたりして、関わっているので、口腔内の健康状態把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医に相談している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄後にポリドントにつけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食後口腔ケアの声掛けをして、実行してもらっている。口腔内にトラブルがあるのを発見したら、家族様に伝え、訪問歯科医の利用の了解を得て、診てもらっている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さを理解し、自尊心を傷つけないように配慮している。	/	/	/	事業所では、履くパンツやテープ止めおむつを、ほとんどの利用者が使用している。中には、布パンツで生活を送ることのできている利用者もいる。また、職員は利用者の排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導を行い、立位の取れる利用者には、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、紙パンツやパッドなどの適切な排泄用品が使用できるように職員間で話し合い、家族に了承を得た上で使用している。さらに、事業所では、体操や水分摂取、ヨーグルトなどを活用して、できる限り利用者が自然排便ができるように努めているものの、健康面を考えて、医師と相談の上で3日間排便がない場合には下剤を使用するなど、排泄をコントロールすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分不足にならないようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活の中でパターンを把握するよう関わっている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	立位の取れる方は、トイレ使用をして頂いている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄を困難にしている要因を探り、改善できることはないか検討しながら関わり、職員間で情報を共有するようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、早めに声掛けし、トイレ誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	その方の身体にあった適したサイズの物を使用している。尿量などを考慮しながら、パッド選びをしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々の排泄パターンを考慮し、日中と夜間でパッドやおむつの使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を多めに接種してもらえるよう関わっている。ヨーグルトメーカーでヨーグルトを作り、食べてもらい、腸内環境を整えている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	午前・午後入浴、お湯の温度等、ご利用者様の希望に添えるように調整している。	◎	/	○	事業所では、午前と午後に分けて、週2回利用者が入浴できるよう支援している。また、利用者の気持ちに乗らない場合には、職員が工夫した声かけをしたり、介助する職員を変更したりするなどの支援を行い、入浴してもらうことができている。さらに、利用者の希望に応じて、職員は浴槽に浸かる長さや湯の温度、入浴する時間帯、シャワー浴などの柔軟な対応に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	個浴でくつろいだ気分で、入浴できるように関わっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご利用者様のできる事はして頂けるように見守り行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を探り、その原因を取り除くように検討し、いろいろな手段を講じて、入浴して頂けるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	いつもと変わらない状態であることを確認し、バイタル測定を行い、入浴の可否を決めている。入浴後の状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の生活の中で、睡眠パターン把握している。	/	/	/	職員は睡眠パターンを把握するとともに、日中に多くの活動をしてもらうことで、できる限り夜間に良眠してもらえるような工夫をしている。また、昼寝や日中の休憩などを取り入れて、職員は利用者の体調を考慮しながら、夜間の睡眠支援に努めている。中には、利用者の健康面を考えて、医師に相談して、眠剤を服用している利用者もあり、現在はほとんどの利用者が夜間に良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探る。日中の活動内容、入浴時間、排泄時間などを見直し、夜間ぐっすり眠れるようにする。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で、安眠につながる活動を行い、日中の過ごし方を把握する。主治医に、現状の報告を行い、指示を仰ぐ。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて、横になり休めるように配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様に電話をかけ、会話されている。家族様から電話があった場合は、取次ぎをしてお話してもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持っている方は、自由にかけている。電話をかけたいと要望があれば電話をかけている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は入居者様に渡したり、大事な手紙は家族様に連絡して急ぎでない場合は、請求書と一緒に郵送している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族様に迷惑にならない時間帯に協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自分で持つことにより安心される方に関しては、家族様の了解を得て、持たれている。家族様の了解のもと、お小遣いとして事務所預かりしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染蔓延の為、買い物は職員が家族様が代行している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の所持に関しては、家族様と相談している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の所持方法は御本人様やご家族様と話し合って決めている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所預かりの場合、使用したら帳簿に記入し、月締めし、利用料金の請求書と一緒に帳簿のコピーと領収書を送付している。金銭管理規定については、入居時に説明させていただき署名捺印を頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や御本人様からの要望に対して、可能な限り応じるようにしている。	○	/	○	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられているものの、利用者や家族から要望が出された場合には、職員は可能な範囲で対応をしている。利用者から「パンが欲しい」という意見が出された際には、職員が行ける時に買い物支援をするほか、家族から「化粧水をつけてほしい、夜間のお茶を用意して欲しい、ベッドメイキングをしてほしい」などの要望にも、できる限り柔軟な対応に努めている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナ感染蔓延の為、今は自由に入出入りできない。面会や訪問の際には、行動のアンケートの記入をお願いして確認している。	/	◎	○	近隣に駐在所や市役所支所、郵便局、小学校、店舗などが点在し、分かりやすい場所に立地している事業所は、建物の2階部分にあり、1階のデイサービス等と共用の玄関となっているほか、コロナ禍において、来訪者にはインターホンで対応をしている。また、2階にあるグループホームの入り口には、ソファや植物を置き、くつろぎやすい空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	毎月壁紙を張り替えて、季節感を感じてもらっている。ホールには、テレビやソファがあり、設置位置を考えて、ゆったりくつろげるようにしている。	○	◎	○	広いリビングにはテーブルやソファなどが設置され、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、テーブル間も十分な広さが確保され、車いすの利用者も移動しやすくなっている。さらに、壁には、相田みつを氏の名言の作品のほか、利用者と一緒に作成したひまわりや花火などの貼り絵が飾られ、利用者は季節を感じることができる。加えて、こまめな清掃や換気を行い、衛生的で臭いもなく、清潔な環境が整備されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快な臭いがないようにしている。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、壁紙で季節感が感じられるように、工夫している。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ご利用者様が楽しく過ごせる憩いの場となるように努力している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	偽自分で慣れ親しんだもの(茶碗、箸、湯飲み)椅子、テーブル、仏壇、テレビ等可能な限り持ち込んで頂いている	◎	/	○	居室には、ベッドやチェスト、エアコンなどが備え付けられている。また、利用者の使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビやラジオのほか、家族写真を飾るなど、職員は居心地良い空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて、居室内にトイレや尿瓶を置いている。	/	/	○	バリアフリー構造の建物は、トイレや浴室などに分かりやすい表示を行い、利用者が混乱しないよう工夫している。また、利用者の認知能力などに応じて、自分の居室を認識しやすいように、大きく名前を表示するほか、目印となる物を付けている。さらに、廊下を挟んで居室が並んでおり、利用者が混乱しにくい環境が整えられている。	
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ここで必要に応じ、可能な限り、なじみの物を使ってもらっている。	/	/	/		/
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと)の異質性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	不審者の侵入等、防犯上及びコロナ感染症対策として、外部の方の来訪時にアンケートの記入を依頼し、安全確認に対応するため、自由に入出入りできないように施錠をしている。	x	◎	△	2階にある事業所の入り口は、帰宅願望の強い利用者がドアを叩くなどの行為があり、安全面を考えて、現在は施錠をしている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の不穏な現状が見られたものの、管理者は、「どうにかしなければいけない」という思いがあり、開錠の試みを検討している。今後、職員は見守りの強化をしたり、入り口にセンサー等を取り付けて、利用者等の出入りを分かりやすくしたり、コロナ禍を見計らいながら、屋外を利用者と一緒散歩するなど、利用者の気分転換を図りながら、施錠をしなくて済むように職員間で話し合い、工夫を重ねた取組みが行われることを期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居の際ご家族様にお話しをして、カギを閉める事に対する理解は得られていると思う。	/	/	/		/
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際アセスメントの情報で共有できている。	/	/	/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	ご利用者様の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見するように注意し、記録に残し、情報を共有している。	/	/	/		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつも違う状態が見られた場合は、看護師、主治医に報告し指示を仰ぐことになっている。	/	/	/		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	御本人様、家族様の意向を重視して、医療機関を受診している。	◎	/	/		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際、御本人様、家族様に納得して頂き、主治医を決めている。	/	/	/		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	主治医より、通院の必要性ありと判断された場合、家族様に連絡して、同意を頂き、職員が付き添いのもと、病院受診している。結果は家族様、主治医に報告している。救急搬送の場合は、救急搬送先の病院がわかり次第家族様に連絡し、病院に来て頂き先生からの説明を聞いてもらっている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院となった場合は、その方の日々の生活状態が解るサマリーにて情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院より家族様に連絡があるので、家族様より情報を頂いている。家族様の了解のもと、病院へ問い合わせをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の関わりの中で得た情報や気づきを看護師に報告している。主治医の往診時に報告又はファックスにて指示を仰いでいる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師にいつでも気軽に相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃の健康管理(バイタル、食事、睡眠)や状態の変化があれば主治医に報告して指示を受けている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	既往歴により、薬の必要性は理解している。副作用についても薬情を読んで、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセット時、服薬時にはダブルチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状態を観察し、主治医に報告相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が重度化した場合や終末期のあり方について、家族様の意向を確認して、方針を決めている。一度決めたことに対して、変更は可能。				事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時に家族等に説明して、意向を確認している。また、複数の在宅医による訪問診療の態勢を整えられ、今までに事業所として、多くの看取り介護を経験している。さらに、終末期や状態の変化に応じて、医師の意見をもとに家族を交えて話し合い、看取りの方向性を決めて対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化し、終末期のあり方について、家族様の意向をくみ取り職員、主治医と情報を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応について、経験回数に関わらず、家族様や本人様意向に沿ったケアを心がけ、実施するようになっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居の際説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族様の意向を職員、主治医、看護師が共有している。検討内容や方針は全職員が把握している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族様の不安や悩みの聞き取りをしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロウイルス、インフルエンザ等研修を行い、理解している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに沿って行う。研修を行い周知徹底している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	市、県のホームページより情報を入れ、事業者内でも注意喚起している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	常にマスク着用し、手洗い、うがい、アルコール消毒実施している。来訪者についても玄関でアルコール消毒をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の状況や様子をご家族様に報告している。	/	/	/	コロナ禍において、面会の制限が設けられており、家族が参加した行事の開催は自粛をしている。また、感染状況を見計らいながら、シールド越しの面会に対応していた時期があるものの、感染状況で面会の機会が左右される現状があり、管理者は、SNSの機能を活用したり、リモート面会を検討している。さらに、家族との関係を保つために、職員は手紙や写真、関係書類などをこまめに送付するとともに、返信用封筒等を同封して、2か月に1回家族からの意見を送付してもらい、利用者へのかかわりやサービスの向上に活かしている。加えて、電話連絡のほか、家族の来訪時を活用して、職員は利用者の様子を伝えて、その場で意見を聞くよう努めている。今後管理者は、「事業所便りを発行や写真の送付を積極的に行っていきたい」と考えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	家族様との触れ合いは、コロナ蔓延の為中止している。	×	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしふりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	運営推進会議が今は文書開催になっており、2ヶ月に1度、家族様よりご意見や要望を書いて郵送してもらっている。意見や要望には、真摯に対応している。	○	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や、身体状況の悪化等、ご家族様に説明して、理解して頂けるようにしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事柄や出来事について、文書にて報告している。職員の移動、退職などは、報告していない。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ご家族様に説明し、理解して頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様が来られた時に、何かご意見がないか、言ってもらえるように、コミュニケーションを取り、信頼関係を作っていく。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居の際に説明し、理解得られている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約に基づいて退去して頂いている。納得の行く退去先については、ご家族様、主治医の意向を組んで決められている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文書の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前に、地域近隣の方々への説明はあったと聞いているが、理解を得られているのかどうかは、わからない。	/	◎	/	法人として、町内会に加入をしているものの、コロナ禍において、利用者が地域住民と交流できる機会は激減しており、職員が近隣住民と挨拶や会話を交わす程度に留まっている。コロナ禍以前は、職員が地域の清掃や防災訓練などに参加協力をするほか、幼稚園児交流を図ることもできていた。また、隣接する同法人の関連施設と連携して、夏祭りやクリスマス会を実施して、地域の子どもたちに参加してもらうこともできていた。法人・事業所として、十分な町内会との関係性が築かれていないため、コロナ禍の収束後には、集合形式の運営推進会議を活用して、地域住民等との交流を話し合ったり、利用者と一緒に運動会や文化祭などの地域行事に参加したりするなど、地域の民生委員や町内会長、地区社協、高齢クラブなどの地域福祉に関係が深い方々とのつながりが持てるように、市行政や地域包括支援センター等と協力をしながら、その幅が少しずつ広がられることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶は出来ている。今はコロナ感染蔓延の為、町内会、自治会への参加はできていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	コロナ感染蔓延の為、地域の方との交流無し。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ感染蔓延の為、地域の方の立ち寄りなし。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をして、何気ない会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ感染蔓延の為、近隣の方々や、ボランティアの方との交流は出来ていないが、コロナ感染が、落ち着いたら、交流を深めていきたい。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ感染蔓延の為、行動制限しているため、関係を深める取り組みはできていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	文書開催の為、ご家族様、地域の方の意見を頂いているが、同じ型の意見に偏る傾向がある。	○	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は文書開催が継続され、文書を送付して、家族等から可能な範囲で意見を聞き、返答するなどの対応をしている。また、利用者や家族、市担当者や地域包括支援センター等の参加はあるものの、地域住民の参加が少ない状況となっている。今後は、地域福祉に関係する方々に、幅広く運営推進会議への参加を求めるとともに、有意義な会議開催となることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	近況報告や、活動報告を行っている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	文書開催になっている。ご家族様や、地域の方に活動内容を伝える事はできていると思う。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念はわかりやすく揭示しており、職員全員が、理解し共通認識を持っている。理念に基づいて、日々の介護実践にあたっている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでもわかりやすく伝えている。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人の意研修は、基本的な事から、専門的なことまで、月1回行っている。	/	/	/	職員の入れ替わりが頻繁にあった時期もあり、法人・事業所として、新人職員の入職時には、ベテラン職員に就いて学ぶ体制を整えて指導するとともに、毎月内部研修を実施して、職員のスキルアップに努めている。また、職員は毎月実施するカンファレンスや日々の申し送りなどを活用して意見交換する機会があるとともに、年2回管理者との個別面談を実施するほか、必要に応じて面談を行い、意見を伝えることができる。さらに、必要に応じて、管理者は職員から出された意見などを施設長へ報告して、対応をしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	内部研修や職員との定期的な面談を行い、介護に対するスキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	評価制度を取り入れており、年2回の査定や年1回の昇給を行っている。また、環境や条件整備についてはその都度相談対応を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍となり外部との交流や研修の機会が減っていると感じている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	その都度、職員との面談を行っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	研修により理解している。	/	/	○	法人内の内部研修のテーマに取り上げて、虐待や不適切な対応などを定期的に学んでおり、職員は意識した対応に努めている。また、日々の業務の中で、不適切な言動などが見られた場合には、管理者から気づいたことを、直接該当職員へ伝えるなどの注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りのときや、カンファレンスのときに話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には、注意を払い、話を聞き必要あれば、上司に報告している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修により身体拘束について理解している。日々の生活の中や、ケアプランの見直しの際に話し合いを行い、不適切なケアが行われないように見過ごさないようにする。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	ご家族様より、身体拘束の要望があっても、その他の方法や対策をご家族様に提案し、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	成年後見制度については学んでいる。日常自立支援事業についての理解は乏しい。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後必要に応じて連携していける体制を作りたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアル作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修の実践の中で身につけている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書やヒヤリハットに基づき、委員会を開催し、対応策を検討し、再発しないように全体で周知している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり。職員は理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合は、速やかに対応を行う。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた場合は、速やかに原因を調査し、経過と結果を伝え、納得して頂けるまで話し合いを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議を2ヶ月に1度、今は文書開催にて、ご意見や要望、苦情等を書いて郵送して頂いている。	○	/	○	日々のかかわりの中で、職員は利用者から意見を聞き取り、可能な範囲で対応をしている。家族から、面会時や電話連絡時を活用して、職員は意見を聞くほか、2か月に1回文書開催する運営推進会議の記録の送付に合わせて、ご意見用の用紙を同封し、書類を返信してもらう形で意見を聞く工夫を行い、出された意見をサービスの質の向上に繋げている。また、日々の業務の中で、管理者は職員から意見を聞く姿勢を心がけているほか、年2回個別面談を実施して意見交換をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族様より、電話で相談を受けている。公的な窓口のあること伝えている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	毎月の会議に出席し、意見を交換し、問題解決に取り組んでもらっている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員より、意見・要望をいつでも聞けるように関わり、利用者本位の支援をするために検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	職員は、個別の年間の目標を定めて、利用者へのかかわりに関する自分の評価を実施するほか、目標の達成に向けて取り組んでいる。また、職員の入れ替わりがあり、今回の自己評価は管理者のみで作成しており、今後は職員の意見を取りまとめながら、自己評価が作成されることを期待したい。さらに、サービスの評価結果は職員へ説明を行い、目標達成計画に取り組むとともに、運営推進会議の中でも報告して、家族等から意見をもらっている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらいながらサービスの向上に繋げることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を明らかにすることで、解決策や対応などを見出し、取り組んで行けるように、機会があれば振り返る。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告している。今後の取り組みのモニターについて、行っていただけるように、働きかけていく。	△	×	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが、成果の確認は今後行っていきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが、原子力火災については、今後検討する。				同法人の隣接する有料老人ホーム等が、松山市行政の福祉避難所となっていることもあり、法人・事業所としても、火災や地震、津波などに関する各種マニュアルを整備している。また、事業所では、年2回消火や避難の訓練を実施している。コロナ禍以前は、地域の防災訓練にも、職員等が参加協力することもできていた。利用者家族等アンケート結果から、家族に十分な災害への備えが理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議等の報告の送付に合わせて、避難訓練の様子の報告をしたり、コロナ禍の収束後には、訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、避難訓練に家族の参加を呼びかけるなど、安心安全な取組みについて、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中・夜間を想定して訓練を実施している。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ感染蔓延の為、訓練は事業所内で行っている。コロナ感染が落ち着けば、地域の方にも、協力、支援して頂けるように働きかけていきたい。	×	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	以前は地域の訓練に参加していた。コロナ蔓延の為、地域の訓練には参加していない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ご家族様からの相談の中で、実践した体験談をお話して、参考にして頂いている。				入所の相談も含めて、地域住民から相談が寄せられた場合には対応することはできるものの、ほとんど相談が寄せられることはない状況となっている。今後は、法人や関連施設と協力をしながら、地域住民からの相談にも対応できることを周知するとともに、相談が受けられるように、地域包括支援センターや他の事業所等と繋がりや連携を図れることを期待したい。また、事業所は、松山市認知症高齢者SOSネットワーク事業・協力事業所にもなっており、一時的に行方不明となった高齢者の捜索等にも協力している。さらに、コロナ禍において、研修参加や会議に参加する機会は減少しているものの、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は、相談に乗りたいと思う。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ感染蔓延の為、活用されていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ感染蔓延の為、受け入れてきていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ感染蔓延の為、地域イベント、ボランティア活動に参加していない。コロナが落ち着けば、参加したいと思う。			○	